

# 研修体系表(試案)記載事項について

## 特別支援教育に関する研修体系表(試案)

福島県特別支援教育センター 令和6年3月11日版

ステップ 指標	知るステップ (特別支援教育の理解)	気付くステップ (子ども理解)	支えるステップ (授業・学級づくり)	つなぐステップ (体制づくり)
ステージ4 (概ね16年～)	<p>子どもに対する指導・支援の観点から4領域に分け、ステップという段階を設けました。</p>			管理職の指導・助言の下、保護者や地域、関係機関と連携し、役割を明確にした校内支援体制の構築に主体的に関わっている。
ステージ3 (概ね11年～15年)			特別支援教育コーディネーターや保護者及び地域、関係機関と連携し、個々の課題を解決するために、指導・支援の充実を図っている。	
ステージ2 (概ね6～10年)			個別の教育支援計画及び個別の指導計画を効果的に活用して、指導・支援の工夫・改善をしている。	
ステージ1 (概ね1～5年)			児童生徒の興味を把握し、一人一人の教育的ニーズを踏まえ授業づくりを行う等、きめ細かな指導・支援をしている。	
ステージ0 (採用時)			特別支援教育施策等の動向や、特別支援教育的支援を必要とする児童生徒の指導・支援の在り方について概ね理解している。	
研修項目 (例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○共生社会の実現に向けて</li> <li>○特別支援教育の動向</li> <li>○福島県の特別支援教育</li> <li>○合理的配慮とは</li> <li>○教育的ニーズとは</li> <li>○個別の教育支援計画とは</li> <li>○個別の指導計画とは</li> <li>○障がいについて</li> <li>○教育相談と生徒指導</li> <li>○交流及び共同学習とは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもを理解するために大切なこと</li> <li>○子どもの実態把握をする際に大切なこと</li> <li>○教育的ニーズの整理</li> <li>○個別の教育支援計画の作成</li> <li>○個別の指導計画の作成</li> <li>○教育相談の役割と在り方</li> <li>○校内組織活用に向けた理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個に応じた指導・支援の充実</li> <li>○ユニバーサルデザインの視点を生かした授業・学級づくり</li> <li>○生徒指導の役割と在り方</li> <li>○個別の教育支援計画の活用</li> <li>○個別の指導計画の活用</li> <li>○校内資源・組織の活用・連携</li> <li>○交流及び共同学習の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者・関係機関との連携</li> <li>○組織的に対応するための校内支援体制づくり</li> </ul>

校長及び教員としての資質の向上に関する指標【第2版】に示されている「特別な支援を必要とする児童生徒の対応」に関する内容です。

調査結果より、ステップ2「気付く」への関心・ニーズが高いことが分かりました。「子ども理解」が充実することで、授業・学級づくり、体制づくりにもつながります。

研修項目はR5のものです。各ステージにおいて目指す姿の達成に向けて有効と考える研修項目を、県の指標に基づき、県や国の資料から選定しました。研究協力校との実践研究を経て、調整します。